



支部だより No.161

日本山岳会京都・滋賀支部

2025年12月15日

巻頭言

考えたい山登りと、時代変革

支部長 幣内 規男

地球温暖化で、冬から極熱の夏、春の花見も、新緑を愛でることも出来ず、いきなりの線状降水帯そして豪雨予報。支部の山行中止、土砂崩れ、橋の流失、山間部の集落孤立、大荒れの日本列島。

これも皆、人間だけのために、地球を、独り占めたことで地球からのしっぺ返しを食らっているだけのこと。日本は海水温上昇で熱帯性気候へまっしぐらに進むでしょう。フグが北海道で捕れ、サケはロシアのカムチャッカ付近まで行かないと捕れない。お陰で庶民の魚、サンマが大漁。

気温39度のなか、数年ぶりに、奥美濃に行ってみたくて、ひとり山旅をしてきました。数十年前には一ヶ月2回ほど。

京都駅午前0時20分発、各駅停車東京行きで大垣駅4時すぎ到着。そこから馬阪峠で、おんぼろバスは、エンジンを冷やすため、半時間ほどボンネットを開けて休憩。ここから徳山村めがけての急阪を下ります。現在は村人が大反対した徳山ダムができ、村人の集落はダム湖の湖底に沈みました。下流の岐阜、名古屋の水ガメ、電力源になりました。

私の青春時代の山登りは、この周辺の山々で京都北山より標高が千メートル超えてると、山頂からのながめが雄大なことが魅力でした、今西錦司先生とも、お会い出来ることも楽しみでした。

印象に残ってる山の出会いは、美濃俣丸の頂上に、南極基地が、と思うような、立って歩ける大ドーム型テントの出現でした。お元気な今西錦司先生が、「よう上がってきたなって声を掛けてくれました。

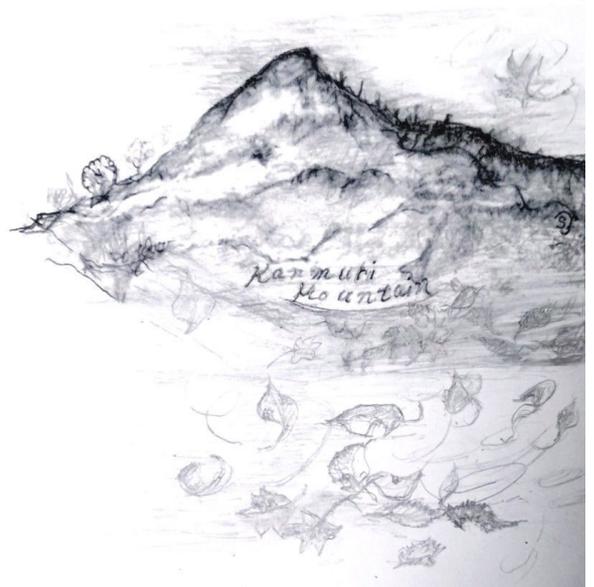
「どっからきたんや。京都からかいな、ほんならもう一回万歳」。岩坪五郎さんもご一緒でした。

今西錦司先生が、五支部例会の発案者と思いますが、先輩がたも、段々と少なくなるのもさみしい限りです。

そんな想いにさせられた、奥美濃ひとり旅も、道路は開通しても、人口減少も止まらないし、殆ど対向車に出会わない道を、冠山を頭上に眺め、山の心臓を破壊して出来たトンネルを福井へ抜けた。この道路が計画されたのは東海北陸道よりも前のはず。

これからの維持と負債は、誰が負うのか。

今の若者に未来が有るのか心配です。



活動報告

日本山岳会

関西支部/京都・滋賀支部

『金比羅山』交流登山

登山組・クライミング組とで実施

<登山組>

栗野雅己

バス組の参加メンバーが、戸寺のバス停前9時17分着で下車。そして車組の京都・滋賀支部メンバーが江文神社までピストンにて3往復し神社前に集合した。



江文神社前で挨拶

各支部長の挨拶と自己紹介を行いクライミング組と登山組に分かれてスタートした。この日も朝から天候良く暑い一日となった。私達 登山組は、松下Lを先頭に10時に神社を出発する。

踏み跡の不明瞭な所を暫く歩き一般登山道にてまずは琴平新宮社を目指す。暫く谷筋を歩いていくが風がなく蒸し暑い。尾根から山腹を歩いていると少しだが谷からの心地良い風が吹き癒される。標高差約50mを登ると岩場方面への分岐に到着する。ここには金属製の綺麗な標識があり木製の標識には少し違和感を覚えた。

休憩を取りながら三壺神社へと標高差約50mを登りきりあと少しで金比羅山頂となる。ここから

一旦下り山頂に到着し昼食タイムとなった。

下山は基本的にはピストンしたが京都トレイルルートに出たからのルートで13時50分に神社に到着した。クライミング組の到着を待ち各支部長の挨拶で締めくくった。



金比羅山山頂

<クライミング組>

松下征悟

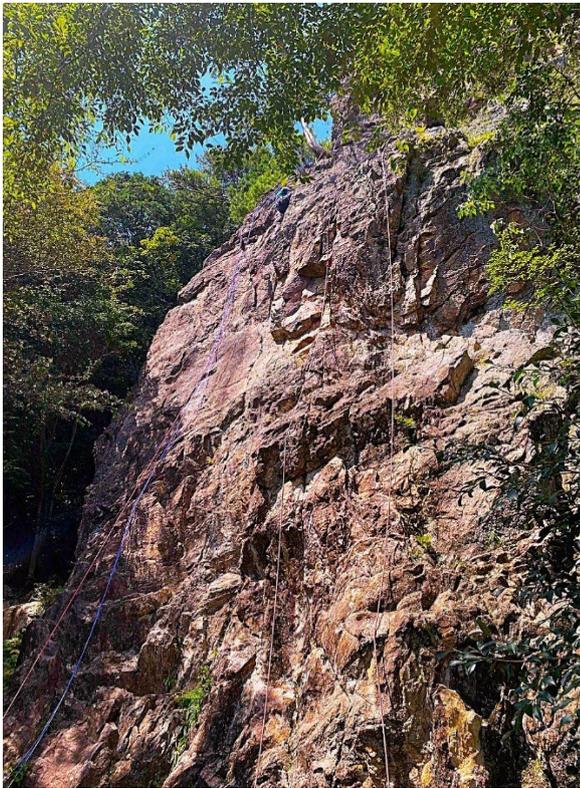
金比羅で登山組とクライミング組に分かれて実施されました。関西支部から12名、京都・滋賀支部から10名が参加し総勢22名の山行となりました。

私はクライミング組に参加しました。計画を聞いた時から楽しみにしていた交流クライミングでした。しかし、いつまでも続く今年の異常な暑さ、夏の間、毎週金比羅に通っていた私は、この気温での昼間のクライミングは、日頃ジムなどの涼しいところで登っている方には辛いのではないかと気になっていました。当日は、集合場所の戸寺バス停から歩く計画でしたが、出発を早め少しでも暑さ対策できるように江文神社手前の駐車場まで車でピストンすることを提案しました。

クライミング組は、駐車場に近く夏でも日陰で比較的涼しいゲートロックに向かいました。しかし、すでにロープをかけて講習を始めている団体がいたため、そのままY懸沢を登りホワイトチムニーへ向かいました。北壁や船など上部の岩場も日陰で比較的涼しいかとも考えましたが、暑さの為か体調があまりよくなさそうな方もいらっしまったので移動距離が短く、ビレイするスペースが広くてこの人数でも安全にクライミングできそ

うなホワイトチムニーに決めました。

チムニールート、サラワリ、コーナハングにロープをセットしてみんなでワイワイ登りました。終始日当たりがよく暑かったですが、木陰に入ると谷からの風が気持ちよかったです。14時30分江文神社に下山、登山組と合流して無事に交流山行を終えました。



「ホワイトチムニー」
各ルートにロープをセットして登る

実施日：2025年8月31日（日）

<登山組>

参加者：関西支部

新本 政子、佐々木原 恭一、永井 和、
野村 康(L)、長谷川 秋子、水谷 透

京都・滋賀支部

上田 典子、栗野 雅己(SL)、幣内 規男、
前川 朋子、松下 征文(L)、八木 透(SL)

<クライミング組>

参加者：関西支部

上森 文子、宇都宮 浩、江村 俊也(L)、
小黒 節郎、神津 香奈子、深澤 優子

京都・滋賀支部

駒井 治雄 (SL)、伊原 哲士、
三木 千津子、松下 征悟 (L)

【 北海道支部 60 周年記念 】

兼 第 38 回

東北・北海道地区集会

に参加して

藤綱珠代

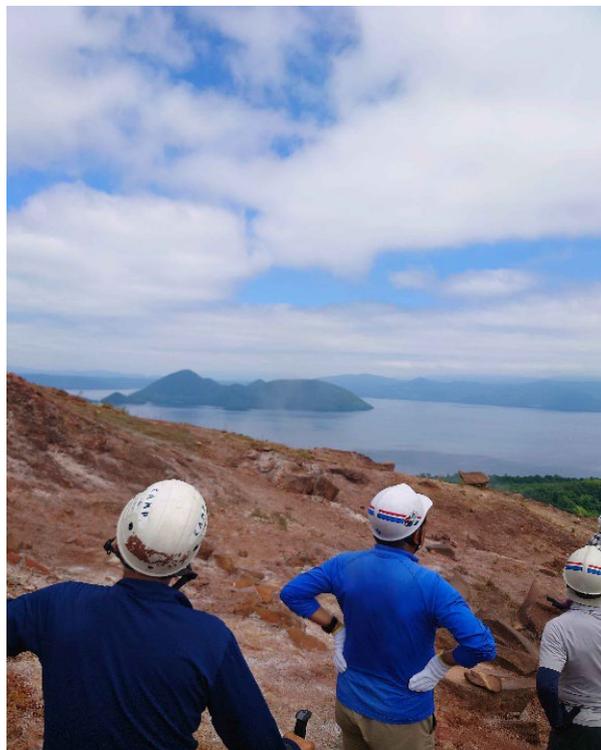
蒸し暑い中、祇園祭の京都を出て涼しいはずの北海道へ東北・北海道地区集会へ参加させて頂いてきた。

今回の山行は洞爺湖温泉に宿泊し有珠山噴火の爪痕が残るエリアと昭和新山を訪れた。

洞爺湖温泉へは 30 年前に新婚旅行で訪ねて以来である。伊丹空港から仙台空港を經由して千歳空港に降り立ち幣内支部長、伊原事務局長と共に会場へと急ぎ車を走らせた。

洞爺湖温泉の講演会会場に到着、東北・北海道支部の皆様と昨年の地区集会以来の再会をした。

講演会では 2000 年の有珠山噴火を経験された火山マイスターの川南恵美子氏の『有珠山とともに生きるー火山との共生が教えてくれたこと』を傾聴した。その後、火山噴火の爪跡がのこるエリアを案内していただき 30 年前の記憶と照らし合わせて歩いた。



昭和新山から洞爺湖をのぞむ

新婚旅行で車を走らせたはずの道路がひしゃげて残置され、また噴火の石が激突した団地。自然災害の驚異を実感した。そして夜は各支部の皆さまと会食を共にし友好を温め、洞爺湖に打ち上げられる花火に魅入った。翌朝、有珠山登山、昭和新山登山、立ち入り禁止エリア見学の3コースに分かれて行動した。幣内支部長、伊原事務局長は禁止エリア見学へ、私は火山マイスターと行く昭和新山登山に参加した。普段は立ち入りが規制されている昭和新山に登れるとのことで興味があったのだ。

天候に恵まれた蒼い水をたたえた洞爺湖といまだに噴火の機会をうかがう火山に触れられた貴重な山行となった。

北海道支部の皆さま、温かいおもてなしをありがとうございました。

実施日：2025年7月11日(土)～7月12日(日)

参加者：幣内規男、伊原哲史、藤綱珠代



隆起した溶岩ドーム

昭和新山は1943年12月の有感地震を契機に突如として麦畑から隆起して誕生した溶岩ドームである。

それを長きにわたって定点観測を続けていたのが、三松正夫氏だ。『ミマツダイヤグラム』と命名された。

この記録は、世界でも貴重な火山活動の記録であり、この地にある『三松正夫記念館』で見ることができる。

ちなみに昭和新山はこの三松家の所有であり天然記念物に指定されているというので驚きだ。

近くで見上げると剥き出しの赤茶けた山頂が青空にドーンとある。これが麦畑から生えてきたとは自然のパワーとはなんと凄いことか。地熱を帯びた箇所があり火傷に気を付けて洞爺湖を見下ろせるポイントまで登った。

第14回 安全登山講習山行 — 金比羅山 — (クライミング講習)

前川朋子

金毘羅山の駐車場に9時集合。午後から雨予報のため駐車場に近いゲートロックで練習となる。

早めに切り上げることを想定して三木さんと征悟さんが先に到着してロープを2本張ってくれていたおかげで、岩場についてすぐ練習が始まった。

わたしが初めてクライミングに挑戦したのは、昨年12月の須藤さんによる安全登山講習会だった。午後から雨予報の寒い日で、2回ほど挑戦したがまともに登れずに終わった記憶がある。

今回は2度目だしロープの結び方くらいは復習してから参加するつもりがそれすらできず、やっぱり止めておこうかと前日まで悩んでいた。ところが、この日は初心者が私だけで、先輩方からどんどん挑戦するよう叱咤激励され、ロープの結び方を何度も教えてもらい躊躇する間もなく登攀練習を続けることになった。

昨年途中までしか登れなかったルートが無我夢中で登り切ったとき、何とも言えない達成感があり、次の登攀ルートに俄然やる気が出てきた。

午後からの雨予報は外れ、時間をかけて練習できたため、須藤さんや三木さん、征悟さんの美しい登攀の姿をじっくり観察できた。そこで気がついたのは、上手な人は力任せで登っておらず、力がうまく抜けているということ。須藤さんから、腕の力でなく足の力を使うように何度もアドバイスをいただいた、須藤さんの登攀の姿からは足の力みすらも感じられず、手足の運び方の美しさに目を奪われた。

下山後にクライミング用語の説明やロープのび方を教わってから解散となった。

今回の講習会のおかげでクライミングの楽しさが少しわかり、もっともっと挑戦するつもりで、もうハーネスを眠らせ続けることはなくなるだろう。須藤さんはじめ何度もアドバイスをくださった先輩方に心から感謝しています。ありがとうございました。

実施日：2025年9月20日（土）

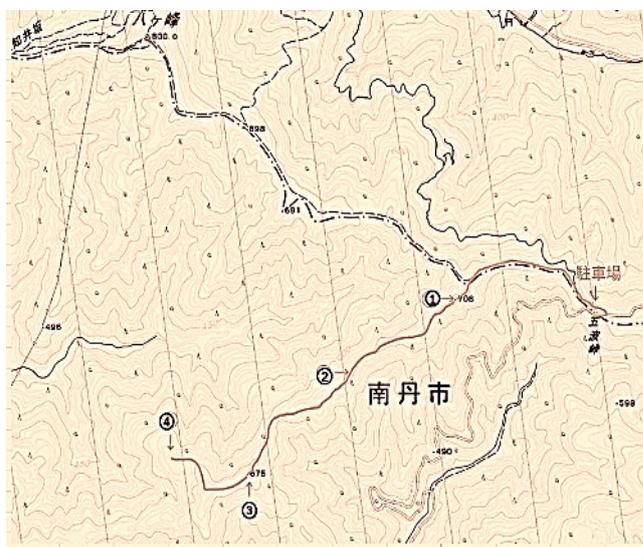
参加者：須藤邦裕（L）、松下征文、村上正、

三木千津子、藤綱珠代、松下証悟、
前川朋子

第15回 安全登山講習山行 — 五波峠 — 1/25000地形図『久坂』 ～地図読み～道の無い山を歩く～

田中佳洋

二条駅に集合した時点でも雨はやまなかった。昨日の天気図にあった低気圧は東に遠ざかり、前線も南に下がっていたので、京都北部の天候は回復に向かうだろうと期待はしていたのだが、周山街道は降ったりやんだり。五波峠に着いたときは駐車場所に車はなく、出発前のミーティング中もパラついた。須藤Lが「もう晴れるよ」とひと言。それでも草で濡れることを想定してレインパンツの着用を指示された。



主稜から派生する尾根上①②③④ピーク

今日は道の無い山を、地図を読み歩くのがテーマ。準備ができると須藤Lが目標地点を4ヶ所発表。すべて主稜から派生する尾根上の小ピークである。女性3人一組と男性2人一組で交互に目標を目指し、到着したと判断したら須藤Lに報告して可否を問うというルール。

今回は読図会初参加者が多かったので、出発前に基本的な地形図の見方、例えば西偏を考慮して磁北線を図上に引くなどの知識を教わった。

さて歩き始めは八ヶ峰に至る登山道を行き、ほどなく目的の尾根の分岐点に着いた。第1地点は女性チームが探索。分岐からいくらか進まない内に、樹木にくぐられた板に『708』の文字。早くも到着かと色めきかけた瞬間、「これ間違い」と須藤Lがバッサリ。なるほど分岐から辿り着く最初のピークに見えるが、

振り返ると分岐がすぐそこに見えている。地図上は約4mm。するとおよそ100mあるはずであり、いくら何でも近すぎる。「2万5千図の等高線は10m刻みであり、それ以下の起伏は図上に現れてこない」ここでまたリーダーから注意点。地図上の長さで現地の距離を照合していく必要を改めて感じ取った。

無事ホンモノの708ピークに着いたら、枝にカマボコ板大の板に几帳面な書体で『P708』の文字が。「これはよく見るピークハンターの付けたもの」リーダーの説明を聞いたが、そのまめまめしさに驚くやら感心するやら。

「だんだん難しくなるよ」第2地点は男性チーム。



でもみんな立ち止まっては地図と地形を見比べ、自分で目標を探し当てようと真剣だ。

30m下って10m上る。そんなことをぶつぶつぶやきながら、それらしい高みに着いたが、老眼の進んだ私は地図を見ると目標地点の右下にある三角印が三角点に見え（実は針葉樹の印）、標石を探すけど見つからないので焦っていた。

そうこうする内に女性チームから「ここや」と声が挙がり、第2地点が確定した。第3地点も女性チームが順調に探し当て、またもやピークハンターの『P675』の札を発見。「ここから先は自分も行っていないよ。がんばって」リーダーの声かけに、勇躍第4地点目指して歩きかけた刹那、「待った。シカの寝床や」とまたもや

リーダーの声。ストックの指す先に駆け寄ると、なるほど大きな動物が一定時間うずくまっていた跡があった。「周りと比べて湿っていない」と今度はハンターの目線も教えていただいた。シカの寝床なんて見たことなかったので、やはりここは「道の無い山」と実感した。近くにもう一ヶ所シカの寝床を見つけ、群れで寝ていたのだろうかとしばし見入っていたが、切り替えて第4地点に向かう。今度は二人で距離や方向を慎重に確かめながら、2回直角に曲がった。地図上の等高線と実際の斜面とがだいぶ感覚的に一致してきたので、正しい曲がり角もつかめるようになってきた。「ここです」「ピンポン」第4地点に無事到着でき読図しながらの道の無い山歩きは、登山道を歩くよりずっと楽しかった。チームで行動してはいたけれど、それぞれ自分の目と頭で判断してルートを探せたためとても達成感があった。須藤Lが締め言葉で「今の時代、GPSは必携。でもそれに頼るのは最後の手段、自分で読図して現在地が分かるようにしておく」リアルに理解でき、おかげで読図がますます面白くなってきた。



松崎さんと村上さんはアドバイザーの役割で、解答は明かさなくても、要所要所で「こんな時はこうした」「あんなこともあった」と豊富なご経験から読図のポイントや山のこぼれ話を語ってくださって、山行を一層楽しく大いに盛り上げていただいた。

五波峠へ戻る途中や帰りの車中で、古道調査ははじめ多方面にわたる山のお話をたくさん聞いたことも世界が広がる思いで、本当に楽しい一日を過ごせた。ありがとうございました。

実施日：2025年10月19日（日）

参加者：須藤邦裕（L）、松崎宜晃、村上正、藤綱珠代、池ノ内直樹、前川朋子

個人山行

小川山烏帽子岩左稜線

－ 小川山 －

松下征悟

小川山に1泊2日でクライミングへ。例年梅雨明けで天気が安定し、昼の時間も長く、行動時間の長いルートが計画しやすい貴重な7月の3連休。しかし、今年は異常に早い梅雨明けと、その後の毎日の猛暑で行きたい山の候補が削られていく。そんな中、小川山廻り目平の金峰山荘に電話してみると空室があった。これはチャレンジするしかない、小川山へ向かった。

20日早朝、廻り目平の駐車場に車を止め5時35分に出発。私は初めての小川山、「小川山に行く」という今回の遠征のひとつ目の目標の達成を喜ぶ。アプローチの目印のケルンもすぐに見つかり、6時30分取り付きについた。

アプローチから岩場にもう登っているパーティが見えていたが、私たちが取り付きについた時には2組が準備をして順番待ちをしていた。気長に準備をしながら待つことにした。私たちの前のパーティは京都のパーティ、普段登っている岩場の話をしながら順番を待つ。そして7時55分、私たちの順番がきた。今回は三木さんがトップでスタート。当初の計画では、できるだけピッチを切らずに進めるだけ進んで時間を短縮するつもりだったが、前が詰まるためピッチを切らざるをえず、なかなか思うように進めない。岩はフリクションもよく、ホールドもたくさんあるが、ボルトが無いので緊張する。4ピッチ目、ここまでのピッチのグレードは5.4、5.6、5.7、そしてルート前半の核心である4ピッチ目のグレードは5.8、階段状のクラックからのスタート。これまでのピッチと同じように進んでいると、目の前にフェイスが立ち上がり背筋がピリリとする。視界が開け高度感も高まり緊張感も増すなか、残置ハーケンをたどりこれを抜けると位牌岩のピークに出た。ここからは気持ちのいい稜線が始まる。8ピッチ目を抜けたところが一ノ楯、時間も12時を過ぎ、残りのピッチ数が気になりはじめる。前が詰まってピッチを細かく切っているところもあるので、トポのピッチと合わなくなってくるが、落ち着いて現在位置を確認する。13時、10ピッチ目の「一瞬怖いトラバース」を無事に突破し、平均台のようなリッジを進むと13ピッチの美しいハンドクラックが見えた。このクラックは左のリッジからパスできるようだが、もちろんクラッ



クへ。クラックを終えると本峰三ノ楯に出る。本峰からはラストのワイドクラックが見える。しかし、時間は15時を過ぎている。懸垂をくり返し、ピッチを進め、16ピッチの懸垂を終えた時点で17時、ワイドクラックは次回の宿題として、残り2ピッチを残し下降路に降りる。1時間弱で廻り目平についた。

遠征2日目の天気予報は下り坂、午前中に小川山のいろんな岩場を巡る。マラ岩、妹岩周辺はたくさんのクライマーで賑わっていた。人気ルートにはたくさんの人、空いているルートで登れそうなルートを探し、妹岩の愛情物語5.8NPをオンサイトして帰路についた。



はじめての小川山は、恵まれた天候の中で烏帽子岩左稜線を登り、廻り目平周辺の岩場を偵察、そしてショートルートのひとつオンサイトすることができ充実した2日間となった。再度訪れたい。

実施日：2025年7月20日（日）～21日（月）

参加者：松下征悟、三木千津子

南アルプスに魅せられる

松田敏男

御岳や蝶ヶ岳といった高峰に自分で計画して登った翌年の夏、大学の同級生4人で白峰三山へ行った。山の選定は男子2人でおこなった。4人とも山の初心者だから北アルプスの険しい山脈を敬遠して南アルプスを選んだのが大きな要因だが、標高が高いのに人気で北アルプスの後塵を拝する口惜しさに抵抗した気持ちも働いていたようだ。

行きは 東海道本線の夜行急行「出雲」と身延線を乗り継いで甲府、そしてバスで広河原に入った。山小屋を4軒、白根御池小屋、北岳稜線小屋、農鳥小屋、大門沢小屋に泊まって、奈良田からバス、身延から身延線、帰日も夜行急行「出雲」に乗って帰った。

当時の南アルプスの山小屋は米を1泊につき1合持参する習わしがあった。だから4袋持って行ったのだった。

北岳稜線小屋はその後北岳山荘と名を変えて収容人数が大きくなり、東側に下りた水場に建っていた北岳小屋は姿を消した。一方では農鳥小屋が現在では素泊まり小屋と様変わりした。2021年に34年ぶりに泊まった農鳥小屋はまだ食事付きだった。9月末私たち2人を含む宿泊客4人は豆炭を入れたホーム炬燵に四方から足を入れて暖を取り夜を明かした。その山行の翌日は51年ぶりに大門沢小屋に泊まったが、スタッフは51年前に小屋はないという。確信していたので調べてもらおうと場所を変えて建て替えていたということが判明した。山域全体隔世の感である。

話を戻して1970年の夏は典型的な梅雨明け後の快晴続きの日々だった。小屋に着いて一息入れた夕食前に夕立がやってくる日もあった。雨が去った後の爽やかさ、夕日を浴びてくっきりと見渡せる山岳展望、これぞ夏山だった。草すべりを登り切って稜線に出た時、突然姿を現した仙丈岳にいたく感動した。また大井川を隔てた西側を蛇行しながら延びる稜線の先に塩見

岳が デンと構え、沈黙する大人然とした気風を感じた。あまりの静寂がなせる業なのか華やきも欲しいといった矛盾が頭をよぎった。

下の絵は間ノ岳を登る途中で振り返って描いた北岳と甲斐駒ヶ岳だ。コンテに水彩を重ねている。



山に大きなスケッチブックを持って行くのは嵩張って危険だから二つ折りにしてザックに入るように工夫した。ただ、しっかりした画板がないと描けない描画具だからベニヤ板で いわば本の表紙のような体裁のスケッチブックを自製した。

翌年の1971年のゴールデンウィークに甲斐駒ヶ岳と仙丈岳に行った。2年前の夏に泊まった蝶ヶ岳ヒュッテに単独行を心配して様子を見に来てくれた10歳上の経験豊富な兄とその友人と3人で行ったのだ。ピッケルとアイゼンも兄が別の友人から借りてくれた。初めての雪山体験だ。京都近郊の雪山でさえ一度も経験しないままの雪山デビューだ。夜行急行「ちくま」で塩尻、そして辰野、伊那北と乗り継ぎ、バスで高遠、乗り換えて戸台着。いよいよ歩き始める。戸台川沿いに上流へ進む。南アルプス林道ができる前なので今より登山道ははっきりしていた。これもまた時代の流れ、というものだ。後年、バスが走らない年末と3月に計3回ばかり戸台川を往復したが、年々荒れてきたように思える。北沢長衛小屋(現在は長衛小屋)に泊まる。翌日、北沢峠に戻って双児山を目指す。アイゼン歩行はすぐに慣れた。

滑らない道具を履いて歩けることが嬉しかった。樹林帯を抜けた双児山手前のピークの展望は本当に素晴らしかった。雪をまとった北岳、間ノ岳が見上げる高さで連なる光景に計り知れないほどの高揚感に酔いつつ、兄たちが休んでいる15分間ほどで絵を描いた。描画具はダーマトグラフという名前の色鉛筆で、削る代わりに芯に巻き付けてある木部を糸で引っ張ってはがす構造だ。山岳画家の山里寿男が著した山での描き方指南書で知って買った。ダーマトグラフで稜線を描いて水彩を施した。

駒津峰の先から尾根を直登する冬道は行かずに通常の迂回道を進んだ。兄は雪崩れる心配がないと判断したからだ。1歩1歩アイゼンで踏み込む位置を見定めながら慎重に進む。谷足は少し谷側に向け山側の足は歩く方向に向けて歩いた。甲斐駒ヶ岳の絶頂は一昨年夏の御岳や蝶ヶ岳よりも昨夏の白峰三山よりも印象深かった。5月という季節が創り出す山岳風景はとてつもない美しさだった。北岳・間ノ岳・悪沢岳・塩見岳などの大展望をダーマトグラフと水彩で描いた。

それが2枚目の絵だ。間ノ岳は雪が全面おおってこの描画具では表現しづらかった。塩見岳のバットレスは逆に雪が落ちていたので目立ち過ぎてしまった。これまで使用していたコンテはフィキサチーフスプレーで定着させねばならないが低温では噴射しにくいと考えてダーマトグラフに替えたがもっとガッツリと描ける画材を見つけられなくなった。



仙水峠経由で小屋に戻り翌日仙丈岳に登った。小仙丈岳で2人が休んでいる時に2枚描いたがその後は行動が早まった。兄たち2人はその日がゴールデンウィーク最後の日で仕事のため帰らねばならなかった。山頂を往復して森林限界が目の前という安全な地点で私は一人残って絵を描きながらゆっくり下山した。長衛荘(現空いていた。翌日は戸台川沿いの長い道を一人歩いた。



その夏に一人で鳳凰山へ行った。御座石鉱泉から登る。とにかく日差しが強くて暑かった。歩き出してどれほど経った頃だったか、水場があった。冷たくて美味しかった。がぶがぶ飲んだ。それがいけなかった。カンカン照りだったはずの空は霧の中に突入していた。大汗をかいた後は冷えへ一直線だった。当時はたぶん綿は山には不向きだという知識はなかったかもしれない。何を着ていたのか記憶も記録もないが、歩けなくなった。吐いた。

うずくまってしまった。そんなピンチの時に登山者がひとり登って来られ鳳凰小屋に通報して下さった。

担架を持って数人の方が来られ事なきを得た。夕食準備の忙しい時に大変な迷惑をかけてしまった。猛省するばかりだった。

一晩寝れば若いからか良くなっていた。赤抜沢ノ頭まで行くだけで下山した。上の絵は赤抜沢ノ頭から描いた白峰三山。茶色のコンテで描いた。帰ってから鳳凰小屋へお礼の手紙を添えて京都の和菓子を送った。

図書紹介

『人生は探検なり』

西堀榮三郎修 1 巻 西堀榮三郎自伝

出版社 悠々社 1991 / 1 / 1

発売日 1991 / 1 / 1

単行本 頁数 345 ページ

松下征文

第一次南極地域観測隊越冬隊隊長として広く知られていると思いますが、平成人には知らぬ人が多いやろな。

登山家、探検家、科学者、品質管理と技術者、原子力までとすごい人物です。アインシュタインが兄の仕事関係で来日したときは一緒に京都を案内されました。その時の写真はあまりにも有名ですごいなと思いました。そして、ともに登った今西錦司さんとも密接なつながりがあります。下手な解説より読んでもらうのが一番です。とても読みやすい良い文章です。

山城三十山からマナスル登山の許可取り付け、ヤルンカン、チョモランマへと登山家としての活動もいきいきとして飽くことなく読めます。

積雪期白根三山初登山の時、今では絶対に食えない？カモシカを八頭も食べたのである。少し引用しよう「白根三山は、食べ物には不自由しなかった。まだ禁猟でなかったカモシカを八頭も食べたからである。桑原武夫君の随筆の中に『血をすする男』というのがあるが、それは私のことだ。カモシカの臓物をすっかり出すと、その空洞の中にドロッと血が溜まる。私はその血を手ですくってキューッとすすった。真っ白な雪の上に血がポタポタと落ちるさまは相当なものだったろう。」腰を抜かす一幕である。

第一次南極越冬隊隊長を務め著書『南極越冬記』もベストセラーとなった。1年後の帰国時に15匹の樺太犬を連れて帰られなかったのが可哀そうであるが第2次隊が昭和基地に着くと二頭が生き残っている。

というニュースに感動し涙が出たのを忘れられない。

新しい真空管の発明や日本初の原子力船「むつ」の原子炉開発と最先端を歩んでいった。



とにかくすごい JAC の大先輩である。

図書館には必ずあるので読みましょう。

『大人の山岳部』

著者： 笹倉 孝昭

出版社 東京新聞出版局

発売日 2014 / 8 / 21

単行本 頁数 192 ページ

松下征文

登山とクライミングの知識と実践、というサブタイトルがついているとおり、分かりやすく納得の解説と写真、阿部亮樹さんのイラストによりビギナーからベテランと呼ばれる方にまでお勧めできる一冊です。

今のモンベル『岳人』になる前の東京新聞『岳人』に連載されていました。

一冊にまとまると新人山仲間にも薦めやすい。登山というゲームの定義に触れ、技術や製品の起源も分かる範囲で記述したのは、それらが普遍の事実であるからだ。個々の名称を英語で統一したのも、それらの起源や定義を尊重したかったからだ。」「登山者としての完成度を高めるための取り組み方を示したものだ。

そのため、あくまでも基礎的なことにしか触れていない。」引用が長くなりましたが、ここがあなたの登山力を鍛えていく登山口となるのではないかと思う。

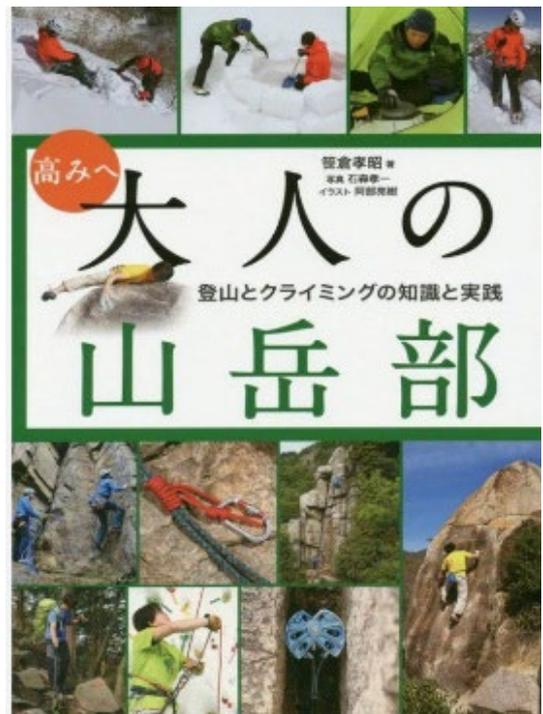
自分たちの時代には、ザイルやピッケル、懸垂下降が普通の呼び方でしたが、今は異世界に行ったような気がします（笑）。昔からカタカナ語を統一しようと言われてきてようやく英語に統一されてきました。

自分にはなじみ難い言葉もありますが、何とかなっています。初心者にはスムーズに読み進み理解が深まり実践できること間違いありません。

ベテラン高齢者は、自分の時代との変化を実感し理解できると思います。今の登山技術や方法がいかに安全であるか。自分たちは、オーバーハングからの下降も肩がらみ懸垂下降が普通でしたが、今のレベルはものすごく安全性が高くなっています。

装備の進化改良や、気象予報の精度が上がっても遭難は絶えません。おそらくこれからも遭難は絶えないでしょう。昔は遭難すると遺族家庭は破産するといわれるほどの出費でしたが、今はタダで助けてもらえるとの甘えがあるのではないのでしょうか。

「敵を知り（山を知り）己を知れば百戦危うからず」肝に銘じましょう。



カラマツ林

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

「京都・滋賀支部新年会」のご案内

下記の日程で、支部の新年会を開催します。
 会員、会友の皆様はお忙しい頃と思いますが、是非、ご参加下さい。配偶者等の会員外の知り合いの方の出席も歓迎です。出欠の連絡は1月2日(木)までに下記の担当者までメール・電話・ハガキ等で申し込みをお願いします。

日時：2026年1月7日(水)
 午後6時30分から午後8時まで。

場所：南禅寺「順正」

京都市左京区南禅寺草川町 60
 電話：075-761-2311

会費 7,000円

申し込み、問い合わせ
 支部事務局
 〒639-1054

奈良県大和郡山市新町 534-5
 電話 0743-54-6685

メール iharajac@gmail.com

伊原 哲士

スキー・ワカン山行

◎若狭駒ヶ岳 △780.1m (川寺山)

実施日：2026年2月14日(土)
 詳細は天候により参加者に連絡
 担当者：須藤邦裕
 申込先：[藤網珠代 tam.4190@gmail.com](mailto:tam.4190@gmail.com)
[TEL:090-4038-1001](tel:090-4038-1001)

－ 健康登山教室 2025 年度 －

◎2026 初詣山行

午年に縁のある大津市の神社

『長良神社(馬神社)』へ初詣

実施日：2026年1月10日(土)
 集合場所・時間：桜門前に9:30集合
 行程：長良神社→長良山→京阪大谷駅

自由参加：昼食持参、希望者は当日集合場所へ
 担当者：松下征文

◎健康登山教室 雪山1

レスキュー比良啓発活動と御殿山登山

実施日：2026年1月25日(日)
 集合場所・時間：坊村明王院前 8:00
 申込期限：1月15日(木) 担当者まで
 担当者：松下征文 メール：04etmm@gmail.com

◎健康登山教室 雪山2

雪洞・イグルー作り

「堂満ルンゼ」下部にて実施

実施日：2月14日(土)

集合場所・時間：イン谷口小屋に8:00

申込期限：2月5日(木) 担当者まで

担当者：松下征文 メール：04etmm@gmail.com

◎健康登山教室 春山

「王子公園」より「摩耶山」へ
ハイキング

実施日：3月14日(土)

集合場所・時間：阪急王子公園駅9:00

申し込み期限：3月5日(木) 担当者まで

担当者：松下征文 メール：04etmm@gmail.com

注意：日程が変更となることがあります。

参加費は不要です。交通費要。

早春の淡路島へ

「釜口山」一等三角点
(本点) 標高 475.72m

芽吹きが早い、海の近くへ行ってみたくて。
淡路島に3カ所ある一等三角点のひとつです。
山頂からは海が見えない山らしいが、
それも良いかな？ 天測点があります。

実施日：3月8日(日)

集合場所・時間：JR 京都駅八条口、

都ホテル京都八条前 午前7時30分

行程：京都駅八条口⇒新名神高速⇒淡路

島縦貫道・東浦IC⇒釜口ふれあい公園→

月ノ山観音→妙勝寺道→釜口ふれあい公園⇒

往路と同じ⇒京都

山行目安：体力2 技術2 車を利用

申し込み・問い合わせ：2月28日(土)

担当者：幣内規男まで

〒610-0121 京都府城陽市寺田今堀20-6

TEL：090-8989-5888

メール：hechan0165@eco.ocn.ne.jp

[2026年度 シリーズ山行計画]

【新企画】 松下征文

『 鉄路駅から近江城山探訪 』

高齢者の企画で、山城跡歴史とスケッチを
楽しみましょう。車の運転も不要です。
藪こきもあると思われませんが、のんびり楽し
みたいと考えています。シリーズとして行い
たいのですべてに参加できる方歓迎。

予 定

4月：JR 北陸線河毛駅－小谷城 495m＝JR 北陸
線虎姫駅－虎御前山砦～224m

5月：JR 寺庄駅－隠岐城 207m－佐治城 250m

6月：JR 東海道本線柏原駅－長比城 391m

7月：比良川左俣納涼沢遊び－参加自由

8月：明王谷納涼沢遊び－参加自由

9月：近江鉄道鳥居本駅－男鬼入谷城 685m

10月：近江鉄道多賀大社前駅－桃原城 634m～
佐和山城 233m11月：JR 東海道本線安土駅－観音寺城 433m～
安土城 199m

12月：京阪石山坂本線南滋賀駅－宇佐山城 335m

1月：JR 近江八幡駅－八幡山城 283m

2月：近江鉄道八日市線武佐駅－長光寺城 234m

3月：近江鉄道水口駅－水口岡山城 283m

参考文献と文庫

滋賀県立図書館滋賀資料館

中井 均著『近江の山城を行く』2019年発行

会務報告 支部委員会

第 475 回日本山岳会京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2025 年 8 月 6 日(水)午後 6 時 30 分~8 時 00 分

場所：からすま京都ホテル 2 階 桃季

出席： 10 名 欠席： 6 名

「報告及び討議事項」

- ・ 出版関連事業について

『丹波・京都・滋賀の山々(仮題)』の出版について討議。

出版の是非について⇒京都新聞への 39 ヶ月にわたる連載を支部委員・会員の総力で取り組んだことは評価したい。著作権や版権、また一部著作者で支部を去った経過もあり、記録として自費出版したい。

支部 40 周年記念誌』としては、『丹波・京都・近江の山々』(仮題)はレイアウトも違うので別物と考えたい。費用問題について編集・出版を依頼の「紙とえんぴつ舎」へ支部として着手した状態で有り、組版・編集経費 770,000 円(現時点)は発生している。

(※出版関連で委員会は激論となり、他は時間がなく討議未了となった。)

第 476 回日本山岳会京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2025 年 9 月 3 日(水)午後 6 時 30~8 時 00 分

場所：鴨沂会館新館 1 階談話室

出席： 12 名 欠席： 4 名

出版について

予算 30 万円に対し、153 万円の見積がでている。

会の経費で足りない分は有志の寄付で賄う。

支部会費について

未納者 43 名 →葉書で対応。

支部 40 周年記念行事について

2027 年 1 月~2 月頃に予定 場所:南禅寺会館(宿泊)

※南禅寺会館の影響を受けない日程で調整(金)~(土)

5 支部山行について

10 月 8 日べ切。人数確認取れたら、5 支部委員会開催予定。受付担当 竹下委員、上田典子会員

支部長報告

入会希望の電話有り。

事務局長報告

5 支部懇親会山行、関西支部も参加希望。

支部関連団体

京都陀羅佛会 2025 年 8 月 31 日で解散(上田委員)

藤尾の森づくりの会 (伊原事務局長)

2025 年 9 月 12 日より再開。藤尾の森で定例作業。

今西錦司レリーフを守る会 (駒井副支部長)

2025 年 11 月 1 日(土)今西錦司レリーフの集い

第 477 回日本山岳会京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2025 年 10 月 1 日(水)午後 6 時 30 分~8 時 00 分

場所：鴨沂会館新館 1 階談話室

出席： 10 名 欠席： 6 名

「報告及び討議事項」

・2025 年 9 月 17 日(水) 日本山岳会全国支部連絡会報告 (参加 52 名 京都・滋賀支部 2 名)

①日本山岳会本部事務局は 2 名体制の為、事務所には 10 時~16 時に滞在。

②本来の JAC のホームページや全国支部メールシステムなどのオンラインの不備について。GoogleWorkspece のアプリによる、グーグルドライブなどの活用について対応。メールが届かない(Gmail)、迷惑メール(Gmail)などについては従来のシステムでは対応出来ず。

・「支部だより」の電子媒体化(PDF)担当 栗野委員
基本資料は栗野委員が管理保管。

・支部 40 周年記念事業

2026 年に開催日程。予算、実行委員の選任。

・2026 年山行計画の為の山行部会開催について
担当 須藤委員

2025 年 12 月 17 日(水)

鴨沂会館新館 1 階談話室にて開催予定。

・山岳救急医療講習会開催 (須藤委員より提案)

2025 年 11 月 22 日(土) 9 時~17 時予定。内容

として山行時に適した止血処置など。

講師に交通費、昼食代。場所：鴨沂会館は土曜の為、半日しか取れず、南禅寺の塔頭寺院に会場変更。

- ・ 将来を見据えての支部運営改革（個人負担を軽減
会員が参加出来る委員会の運営）
支部委員会出席交通費の支給について討議。
編集委員への作成手当支給について討議。
支部ユースクラブ設立について方向性を討議。
支部技術講習への費用支出について
団体装備支給について確認。

「報告」

- ・ 会務連絡、その他
- ・ 2025年9月28日(日)大江山山上ヶ岳山頂で、「大江山と登山家の藤木九三」に関する
八木監事の特別講演会。 参加 伊原

「予定等」

(京都・滋賀支部関係)

- ・ 2025年11月9日(日)～10日(月)
5支部懇親山行+関西支部「琵琶湖沖島」。
講演会場 休暇村ホール 14時～17時
宿泊 近江八幡国民休暇村西館
参加費一人23000円 50人の予約を40人に変更
八畳×4人・11部屋は確保(伊原)
(全国他支部関係)
- ・ 第38回全国支部懇談会及び関西支部設立90周年
記念式典
- ・ 2025年10月26日(日)～27日(月)、大阪ガー
デンパレス
出席 (全日)幣内 伊原 駒井 (記念式典・懇
親会)大倉 松下 藍野
(記念式典)上田(典) 村上(記念式典・山行)
上野(陽) 岡田(観光)
- ・ 2025年11月15日(土)～16日(日)全国ボラン
ティア支援登山集会(東海支部)
9月13日(土)参加申し込み締め切り
参加予定 伊原

会 員 異 動

会員入会：

鎌田 得宏 (会員番号 17547)

〒625-0051 京都府舞鶴市

行永東町 36 番地 3

支部会員入会：

成田 圭子 (会員番号 17556)

〒607-8411 京都市山科区御陵

大津畑町 16-3-706

新入会員自己紹介

◎ 三木千 津子さん (No.15236)

はじめまして、三木千津子と申します。
福井県敦賀市に住んでいます。登山歴は 20 年ほどで初めは家族と里山歩き、地図とコンパスを見て稜線を繋ぐ山歩き、徐々に北、南アルプス、八ヶ岳のバリエーションなど中心に楽しんできました。近年ではアルパインクライミングを中心に京都や滋賀で岩登りの練習をしています。少々体力の低下も感じてきていますが皆さんと一緒に色々な山に挑戦したいと思い入会をいたしました。どうぞよろしくお祈いします！

◎ 佐々木 司さん (No.17540)

学生時代は空手道部に所属しており、登山を始めたのは 2012 年にモンベルが行っているSEA T O SUMMIT出場がきっかけです。同大会に出場していた仲間から登山に誘われてあちこちに登りに行くようになりました。ですので登山歴はまだまだ浅いです。

2019 年に初の海外登山でヒマラヤピーク、その後 2019 年にアイランドピーク、2024 年にマナスルに登頂しました。

これからも登山を中心に、さまざまなアウトドア活動が続けていきたいと考えています。

どうぞよろしくお祈いいたします。



◎ 鎌田 得宏さん (No.17547)

7 月に加入した鎌田得宏です。舞鶴市と京都市左京区に住んでいます。

若いころに少し山を歩いていましたが、定年退職後に京都一周トレイルを歩き始め、山歩きの魅力に気づきました。

北山、丹波、丹後の山々や峠を一人で歩いていましたが、体力や登山の実績はありません。日本山岳会や山岳会の活動は「山城三十山」や日本山岳会 HP「日本の山岳古道 120 選」の針畑超えの記事で知り、親しみを持っていました。よろしくお祈いします。

準会員入会

◎ 中塚 智子さん (No.A0659)

滋賀県在住の中塚智子です。

友の会で会に参加しておりましたが、今回、準会員となりました。

学生の時から、山は、関わっていて、今に至ります。これからも、できることで、山に携わっていきたいと思っています。日本山岳会には、たくさんの諸先輩がいらっしゃるの楽しみです。

よろしくお祈いします。

◆支部だより 153 号の訂正とお詫び

インタビュー「この人に聞く」の文中、
斎藤顧問が吉野の白髭岳で怪我をされた日が
2012年9月3日となっていますが、正しくは
2012年11月4日でした。訂正いたします。

※ご指摘いただきありがとうございます。

———— 次号 162号 予告 ————

2026年3月15日発行 原稿締切1月31日(土)

原稿送付先 編集担当 野村綾子



= あとがき =

編集担当に携わってから、わからないこと、
知らないことを減らそうと思ってきた。

しかし、それどころか PC 操作が急に難しく
なる。加齢なのか？古い頭は置いてきぼり
にされる。新調した PC は操作習得からはじ
まるさまだ。わからないことはスマホが教え
てくれる。そして PC の新しい便利さに気づ
かせてくれる。が、操作方法を度々忘れてし
まう。またスマホに聞く、の繰り返しだ。

編集時間の浪費と悪戦苦闘しながら、分か
らないこと知らないことをスマホにこれから
も聞いていくのだろうか。こんな編集担当で
よいのだろうか。

ひよんな思いが浮かぶ。
小学校の作文の時間のこと。(60年以上昔)
アナログにもどればどうなる？のような。
現在の PC は便利さゆえで、手書きにしちゃ
えば？と考える。と。

楽しかった時代。

原稿用紙にひと文字ずつ想いを綴り置いて
いく。誤字脱字を直し。躓けば辞書をめくり、
書き損じは消しゴムで消し、自分なりのきれ
いな文字に書きなおして先生に見てもらう。
こんなわくわくが今もあるのだろうか。

先生から返してもらった原稿用紙には赤ペン
文字の添削がそえられていて、わくわく。ド
キドキ。が、待ち遠しかった。

執筆者(生徒)の想い、校正者(先生)の想
いを赤ペン文字が双方の心をつないだ。

そんな時代を思い出そう。



(竹下節子)

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより161号」

発行所 〒610-0121 京都府城陽市寺田今堀 20-6

幣内規男

日本山岳会京都・滋賀支部

発行者 幣内規男

編集者 竹下節子

印刷 北斗プリント社

京都市左京区下鴨高木町 38-2 〒606-8540

TEL075-791-6125

京都を学ぶ

京都学研究会 編

(代表：金田章裕 京都府立京都学・歴史館館長)



洛南編

新刊

水陸交通の要所としての淀、石清水八幡宮の信仰の歴史、ハイテク産業の集積、松花堂弁当誕生秘話など：

丹後編

雪舟「天橋立図」にみる中世丹後、舟屋の歴史と観光化、近世漁業と伊根浦の捕鯨など：

宇治編

平等院はなぜ宇治にあるのか、源氏物語に見る宇治、戦場としての宇治、宇治茶の科学など：

伏見編

秀吉の「首都」伏見城下の姿、消えた「巨椋池」の物語、船宿の実態、日本酒ブランドと酒米など：

洛東編

牛若弁慶伝承、足利義政と銀閣(東山山荘)、清水焼と登り窯、京都人の愛する鴨川など：

洛西編

名勝・嵐山で知られる洛西。桂川、渡月橋、竹林、蚕の社、木島神社、天龍寺に代表される庭園文化など：

南山城編

古来より京都と奈良を結ぶ、回廊地域南山城。木津川、緑茶、恭仁京、飛鳥仏教、流れ橋など：

丹波編

山国・京都丹波を再発見！ 明智光秀の統治、グンゼと蚕糸業、保津川下り、福知山鉄道など：

洛北編

北山のヤマモ、葵が繋ぐ賀茂祭と將軍家、大原勝林院の秘仏、雑煮と納豆餅の関係など：

A5判・並製・184～242頁 各 2,420円(税込) ❖以下続刊

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <https://www.nakanishiya.co.jp/>

電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

表示は税込価格です



【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間

月～土 10:00～19:00

※日 10:00～18:00

休日

無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー

075-341-7702

2F/スポーツ車コーナー

075-341-7703



I FEEL THE WIND



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします！

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで！

取扱
ブランド

DAV VINTAGE GRIP, GINEP, VITTORIO, HED, DOLAN, PINARELLO, SLOOK, ANCHOR, SCOTT, FOCUS, WINDY, COMBO など